

④9 トマトを育てよう

日当たり・排水の良い場で

トマトは、世界で最も多く生産されている野菜の王様です。とりわけ夏のトマトは強い光を受けビタミンCなど栄養分が豊富に含まれています。南米アンデスが原産地で、日当たりと排水の良い土壌、冷涼な気候を好みます。生育適温は15から20度で昼間と夜の気温差があるとよく育ちます。

1. 苗の準備

苗を種苗店やホームセンターなどで購入し、準備します。一番花の咲いた節間の伸びていない苗を選びます。品種は、大玉は桃太郎、麗夏、中玉はシンディスイート、レッドオーレ、ミニはアイコ、ミニキャロルなどがあります。

2. 畑の準備

ナス科の野菜（トマト、ナスなど）を3、4年植えていない、排水の良い場所を選びます。定植の2週間前に1平方メートルあたり苦土石灰100グラムを散布し耕うんします。その1週間後、定植場所に堆肥2キ、鶏ふん100グラム、油かす100グラム、リン酸肥料20グラムを散布し、深く耕うんします。

3. 定植

4月中旬から5月上旬頃、苗を定植します。畝幅140センチ（床幅80センチ、通路幅80センチ）の畝を作り株間は45センチにします。雨が続くと病気や裂果を招くので、畝にマルチをし、簡易な屋根を設置します。苗は浅く植え付け、定植後はかん水します。

4. 支柱立て、整枝、誘引

トマト1株に長さ2メートル程度の支柱をたてます。ひもで茎と支柱を結び誘引します。各節から脇芽が発生するので芽を手で取り除き、大玉は1本、ミニ、中玉は2本仕立てにします。

5. 摘果、追肥、かん水

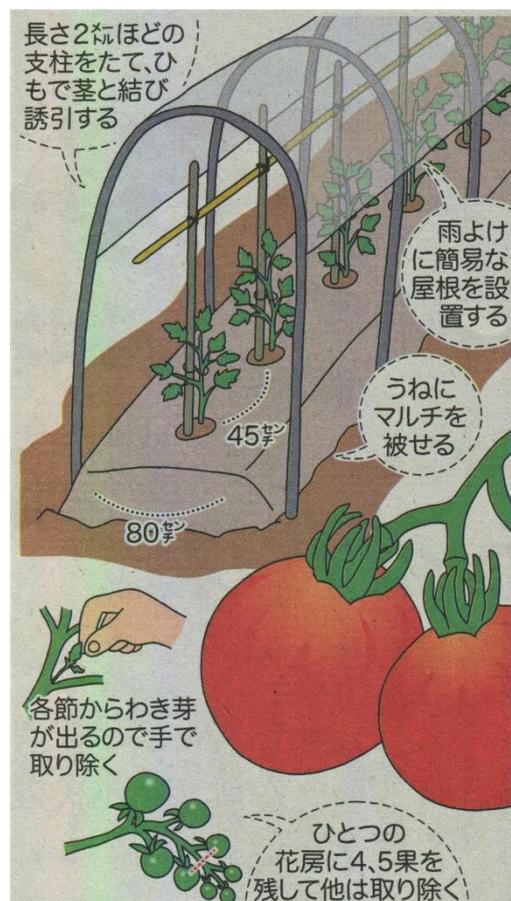
大玉は10円玉の大きさのころ1花房に生育の良い4、5果を残して他は取り除き、中玉、ミニは、先端の奇形のものだけを取り除きます。3段目、5段目の花が開花した頃に、追肥用化成肥料を1平方メートルあたり10グラム追肥します。かん水は13段目の花までは控え、その後も草勢に応じてかん水します。

6. 病害虫

萎凋病や青枯れ病、トマトモザイクウイルスが発生したら、発生株は取り除きます。アブラムシはウイルス病を媒介するので防除します。

7. 収穫

着果後赤く色づいたらハサミで摘み取り収穫します。



(鹿児島市都市農業センター)

令和3年4月8日(木) / 南日本新聞